

## 藤田浩子の 少し昔のこと 〈81〉

## いろはにほへと

お正月にいろはかるたをなさったご家庭もあるでしょうか。「い」は「犬も歩けば棒に当たる」で「ろ」は「論より証拠」、「は」は「花より団子」です。上方いろはは「一寸先は闇」に始まり「論語読みの論語知らず」「針の穴から天覗く」と続きます。そのひとつひとつがことわざになっていて、かるたで遊びながらことわざも覚え、ついでに道德教育にもなったという、今で言えば知育おもちゃです。

明治になって小学校ができ、50音表でひらがなを習うようになりました。まず「あいうえお」の5つの母音があって、その母音にク(k)の音をつけると「かきくけこ」になり、それにス(s)の音をつけると「さしすせそ」になるという、非常にわかりやすい表をもとに習うようになったのです。



「あ」段の音は、かも、さも、たも、音を伸ばせばみな「あ」になります。非常に論理的な表で、この表を作った人は賢い人だなあと思っています。

江戸時代までの寺子屋では「いろは」で字を覚えていたのです。

この「いろは」を作った人も、また別な意味で賢い人です。なにしろ47文字(十ん)すべての文字を使って、同じ字は2度と使わないということで、それなりの意味のある(ようなないような)文を考えたのですからね。作者は弘法大師と私は教わってきましたが、別の人だという説もあるようです。まああなたが作ったにせよ、賢い人には違いありません。

いろはにほへとちりぬるをわかよたれそつねならむ

うみのおくやまけふこえてあさきゆめみしゑひもせすん

色は匂へど散りぬるを 我が世誰れぞ常ならむ  
有為の奥山今日超えて 浅き夢見し酔ひもせすん

## リレー連載 &lt;214&gt;

## わたしの大好きな絵本

伊納ゆかり (NPO こどもすぺーす 柏 ポレポレ)

このコーナーでもとりあげられたヨシタケシンスケさんのファンは多いと思うけど。ストレス解消法に「マインドフルネス」「自律神経を整える」とかいろいろあるけど、ざっくりまとめると緊張を緩めるってことを言いたいのでは？(個人の独断ですが)

「あつかったらぬげばいい」のタイトルにそりゃそーだと思いつつ、余裕のない大人にはなかなかできないコトなんです…「おとなでいるのにつかれたら、あしのうらをじめんからはなせばいい」は私が保育の仕事に1歳児のお子さんを膝に乗

## 『あつかったらぬげばいい』

ヨシタケシンスケ著

白泉社 2020年発行

せ、そうっとブランコをこぐ。その子の体の重さと温かさを感じながら見上げる空の、広さ、高さ、青さに気づく時、あつこの瞬間のすかすがしさのことだわ!と実感するの。

悩みをひきする日常に疲れた時にきっと自分にぴったりの対処法が見つかるかもしれないから、ぜひ一度お手にとって見てくださいなね。

